慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	研究セミナー : Onto-logical things and anthropological matters
Sub Title	
Author	Mohácsi, Gergely
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2011
Jtitle	活動報告書 Vol.5, (2011.) ,p.39- 39
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章 : シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20120300-0039

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

12

研究セミナー
Onto-logical Things and Anthropological Matters

開催日　2012年２月11日
企　画　宮坂敬三（哲学・文化人類学班）
講演者　Casper B. Jensen（IT University of Copenhagen）、Fabio Raphael Gygi（Doshisha University）、宮坂敬三、Mohacsi Gergely（哲学・文化人類学班）

人類学班では、2012年２月11日に「Onto-logical Things and Anthropological Matters」と題する研究セミナーを開催した。もの（thing）は物質や象徴などの形で、昔から人類学の主な対象となっており、また最近の多くの論文集や議論からもわかるように、依然として人類学者の関心を集め続けるのである。本研究セミナーでは、人類学と科学技術社会論（STS）の境界領域で研究を進めている二人の発表者のそれぞれ独特な民族誌をふまえ、ものを通じて考えることから、人間中心の枠組みを乗り越えた人類学の在り方ついて討論してきた。

ベイトソンのサイバネティクスとの共通点を指摘した班リーダーの宮坂先生の問題提供の後、北欧の科学技術社会論の研究に近年力を注いでいるコペンハーゲン IT 大学から Casper Bruun Jensen 博士、また、日本研究の代表者として同志社大学の人類学者の Fabio Gygi 博士の発表を聞かせて頂いた。Jensen 博士は、「Ontological Phase-Shifts: The Electronic Patient Record, ca. 1995」と題した発表で、詳細なデータに基づいてデンマークにおける電子カルテの導入を巡るさまざまな懸念について解明した。次いで、Gygi 博士の発表は、日本でのフィールドワークを中心に、「片付けられない女」のカテゴリーの出現に関する分析であった。

研究会の後半には、塾内外からの参加者の積極的な発言による、各分野を乗り越える学際的な議論を通じて、ものを対象にした科学技術が媒介する論理と感性の相互作用に光が当てられた。

（モハーチ・ゲルゲイ）

On February 11, 2012, two young scholars invited by the anthropology group presented their work concerning the relationship between humans and nonhumans as mediated through technoscientific practices. Casper Jensen talked about hisprevious research on the emergence of the electronic patient records in Danish healthcare. Fabio Gygi discussed the cultural aspects of hoarding in Japan and its consequences in the changing categorization of mental and behavioral disorders.